

市民科について

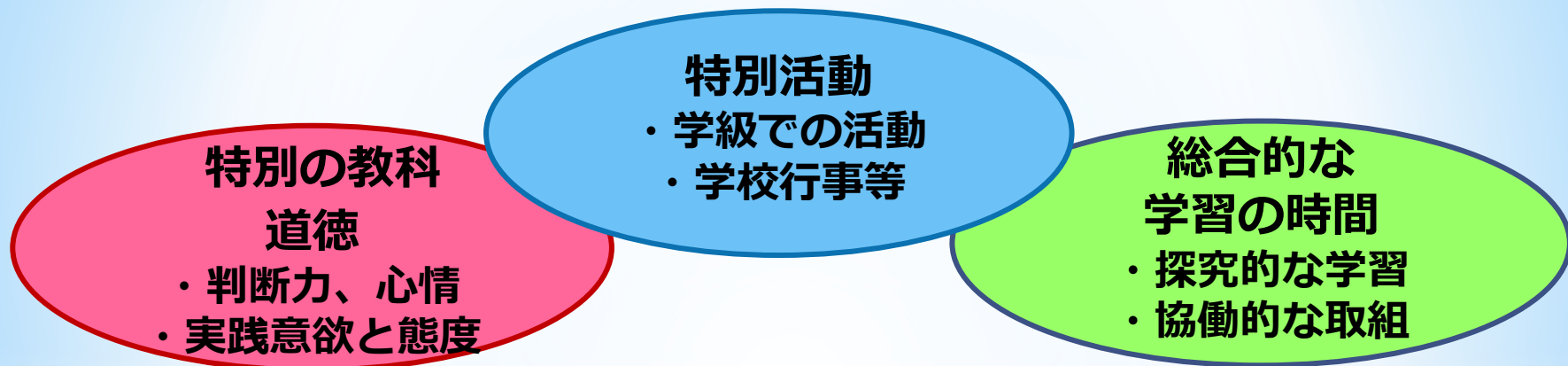
- 1 市民科とは
- 2 市民科学習について
- 3 一貫プランについて

令和7年7月8日（火）

1 市民科とは

1 市民科とは

市民科について ～区の独自教科として～



⇒それぞれ異なる学習体系や指導方法で実践されていたものを統合し、「一貫教育」・「日常実践」の観点から再構築

「市民科」

1 市民科とは

市民科について ～市民科の創設の背景～

子どもたちに見られた課題



平成14年～市民科構想



平成18年度 市民科実施

1 市民科とは

市民科について ～市民科の構成～

「市民科」

市民科学習(教科書等を活用した学習)

一貫プラン(第3学年～・年間35時間)

児童会・生徒会活動

クラブ活動

学校行事

※市民科の
授業時数には
含めない

1 市民科とは

市民科について ～市民科の特色～

- 1 単元、教科書があり、5つのステップの学習過程が決まっている
→指導の均質化、効率化
- 2 日常実践につなげる取組（ステップ4）
→行動化
- 3 特別の教科 道徳、総合的な学習、特別活動の統合
→一体的な指導の展開
- 4 特色ある体験活動（スチューデント・シティ、ファイナンス・パーク、CAPS等）
→経済体験の充実
- 5 一貫教育、校区による一貫プラン
→9年間を見据えた学びと指導の連続性

1 市民科とは

市民科について ～区の教育での位置付け～

未来を切り拓く力をもつ児童・生徒

- 「知・徳・体」をバランスよく兼ね備えた児童・生徒
- 困難に負けず生き抜く児童・生徒
- 地域に愛着をもち、地域の一員として社会に貢献する児童・生徒
- 伝統と文化を尊重するとともに国際的な視野をもつ児童・生徒

各教科・教科横断の中で学びを深める

市民科の資質・能力
区の一貫教育の基盤として、明確に位置付けられている

新たな価値を創造する力

- 文章や情報を正確に読み解き対話する力
- 科学的に思考・吟味し活用する力
- 価値を見つけ生み出す感性と力
- 好奇心・探求力

グローバルに活躍する力

- 英語をツールとして活用する力
- 伝統文化理解と国際感覚
- コミュニケーション能力
- 多様性を受け入れる寛容性

品川区立学校教育要領で
求められる資質・能力

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力・人間性
- 市民として社会を形成する力

9年間の一貫したカリキュラム ～品川区立学校教育要領～

三校種体制における学校教育の推進 ～小学校・中学校・義務教育学校～

地域とともにある学校づくり ～品川コミュニティ・スクール～

品川教育ルネサンス - For The Next Generation -

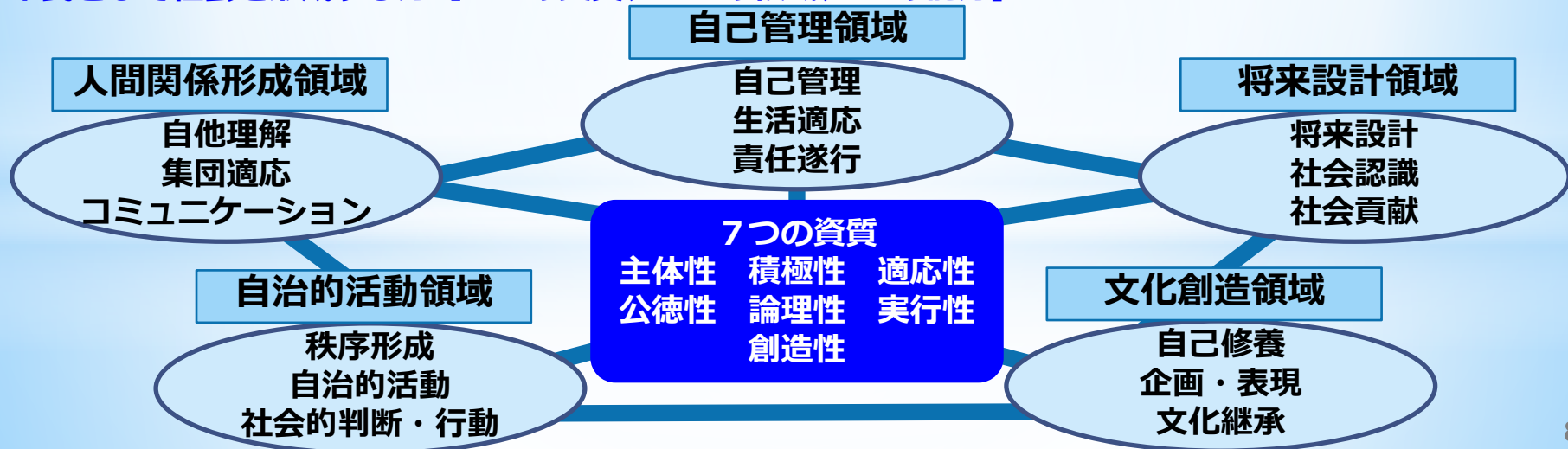


1 市民科とは

市民科について ～市民科の目標～

教養豊かで品格ある人間形成を目指し、社会における規律・規範を重んじ、自己抑制力とそれを支える倫理観・道徳観をもち、自分自身について考え、常に自己変革を図っていく**資質と能力**を育てる。また社会の一員として自立し、社会に積極的に関わるために、身近らの社会的役割を自覚して発信・行動し、社会の発展に貢献しようとする**資質と能力**を育てる。

市民として社会を形成する力【7つの資質、5つの領域、15の能力】



1 市民科とは

市民科について ～市民科の目標～

【市民科における7つの資質】

主体性	自分の考えや立場をはっきりもち、行動するさま
積極性	他者や集団・地域社会などの対象に進んで働きかけるさま
適応性	様々な場面や状況、条件、環境にうまく合わせるさま
公德性	規範など社会生活の中で守るべき行為の善悪を判断し、善の行動をするさま
論理性	問題の本質をとらえ、筋道をたてながら考え解決するさま
実行性	目的に向かって、正しい方法を選択し実行するさま
創造性	自分の力で、よりよいものを創り出すさま

1 市民科とは

市民科について ～市民科の目標～

【市民科における5つの領域と15の能力】

個と内面	自己管理領域	① 自己管理	② 生活適応	③ 責任遂行
個と集団	人間関係形成領域	④ 自他理解	⑤ 集団適応	⑥ コミュニケーション
	自治的活動領域	⑦ 個と内面 秩序形成	⑧ 個と集団 自治的活動	⑨ 個と社会 社会的判断・行動
個と社会	文化創造領域	⑩ 自己修養	⑪ 企画・表現	⑫ 文化継承
	将来設計領域	⑬ 将来設計	⑭ 社会認識	⑮ 社会貢献

1 市民科とは

市民科について ～改訂の中での変化～

一部の授業では、市民科創設時に示された、「教えるべきことは教える」という指針を過度に捉え、価値の教え込みや画一的な対処方法トレーニングを偏重する場合も見られた。指導内容を一律に理解させる授業が展開され、「教える」ことが表面的になっている傾向があり、児童・生徒が主体的に学び、自信をもって自分の考えを発表したり、その考えに基づいて行動したりするための指導に課題が生じている。

品川区立学校教育要領（平成30年3月）

2 市民科学習について

2 市民科学習について

指導書から

教科書 p.24～25

【連絡科の内容項目】B 賛助 思いやり B 感謝 B 礼儀 C よりよい学校生活、集団生活の充実

人間関係形成領域 ● 自他理解能力

12 思いやりをもって人とかがわろう いろいろな人との関わり方

【どうしているのかな】
イラストの子どもたちはどのようなことを言っているが考えさせる。言われた相手はどのように感じているか想像したことを加えて発表させる。

○ジャングルジムに乗りたいたいかな。乗せてあげるよ。

○どうぞ、座ってください。

○お先にどうぞ、ドアを開けておきます。

授業実践の中で具体性をもたせ、かかわることの意義を意識させる。

このイラストの他にも、各社の取組の中で見られる場面を提示して考えさせてもよい。

日常の生活の中で、自分より小さいことやお年寄りとかかわることがなかなかできない子が多い。幼児小の運動事業としての保育園・幼稚園との交流を単元の中で活用するとよい。

【大切なこと】

小さい子とかかわるときに大切なことは何か考える。その際、1年生の場合は、幼稚園や保育園の時の小学生との交流、2年生の場合は、1年生の時を振り返り、上級生にしてもらってうれしかったことを思い出させる。

小さい子とかかわるときのポイント
- 手をつないでペースを合わせて歩く。
- 目の高さを合わせてゆっくり話す。
- 自分から話しかける。
- 笑顔でしっかり話を聞く。

12 思いやりをもって人とかがわろう

【どうしているかな】



【実践のこぼし】

自分がうれしいことをしてあげると、あい手もうれしくなります。

【やってよかった】

いっしょにしたいことを話し合ってみよう。

【やっていいよ】

私のまわりのいろいろな人と思いをもちかかわろう。

【よかった】

「あい手がよろこんでくれることができたかな。」



【やっていいよ】

近所の方、下級生・上級生とのかかわりなど、実践場面を具体的に示しておくようにする。

【まとめよう】

相手の立場に立って活動することができた振り返る。特に小さい子どもとかかわりでは、大変と感じたことも感想として出てくると思うが、よさを評価し、達成感や次につながる意欲をもたせたい。

【やってみよう】

幼児小での交流で一緒にしたいことを考え準備をさせる。

自分達が楽しむのではなく、小さい子に寄り添い、楽しんでもらえるような活動になるよう、めあてをもたせて活動させる。相手の立場に立って考えさせる。

お年寄りとの交流では、昔の遊びを覚えてもらう活動や、気持ちよくなった交流ができるように話し合う。

実践例

- ・運動会(学芸会)の招待状をつくらう。
- ・給食を一緒に食べよう。
- ・学校の取組として行う行事だが、低学年なりに歓迎の冊子や、証書を考えさせるようにしたい。
- ・保育園の子に、小学校の授業体験をさせてあげよう。
- ・おじいさん、おばあさんに読み聞かせや演奏・合唱を発表し楽しんでもらう。

領域・能力 単元名

各ステップの 具体的な指導内容

1・2年生

2 市民科学学習について

指導書から

単元のねらい

ねらい▶▶▶ 思いやりをもって進んで人と接することができる。

1 どうしているかな 【把握】

小さい子やお年寄り、障がいがある方とかかわった経験が少なく、どのように接してきたかを振り返る。
イラストの子どもたちは、どのようなことを言っているのかを話し、小さい子どもやお年寄りとかかわり方を学習していくことを考える。

2 大切なこと 【認識】

小さい子どもやお年寄りには、相手の立場に立って接することが大切であることを理解する。
相手の気持ちに気付く。

学習活動

3 やってみよう 【習得】

小さい子どもやお年寄りとの望ましいかかわり方を身に付ける。
どのようなかかわり方があるかを考える。また、小さい子どもやお年寄りと接する時の言葉遣いや態度について理解する。

4 やっていこう 【実践】

身の回りのいろいろな人と思いやりをもってかかわる。
生活科でのお年寄りとの関わりや地域の保育園などの交流の場で、優しい気持ちで交流する。

5 まとめよう 【深化】

小さい子どもやお年寄りとの交流を振り返り、思いやりの気持ちをもって接することができたかを考える。
交流した人たちにお礼の手紙を書いて、感謝の気持ちを伝える。

留意点や関連教科等

解説

- ★子どもの実態として、自分より小さい子やお年寄りと接する機会が少ないために、どのように接していいかわからない子どもが多い。また、まだ周囲の人の気持ちよりも自分の気持ちを優先させてしまう場面も見られる。
- ★かかわる機会を多く設定し、自分中心に考えてしまう気持ちを抑えて、周囲のことを考えていく力を身に付けさせたい。
- ★小さい子どもやお年寄りとかかわり方を身に付けさせることがねらいである。その体験を通して、いろいろな人の立場に立って考えたり共感したりする資質や心性が育成できると考える。
- ★生活科「ともだちになろうよ」の学習と関連を図り、保幼少の交流活動の位置づけを計画にして指導する。
- ★学校行事や地域施設との連携を生かして取り組む。

評価の観点

- ◆小さい子どもやお年寄りと上手にかかわる方法を理解している。
- ◆誰に対しても思いやりの気持ちをもって接している。

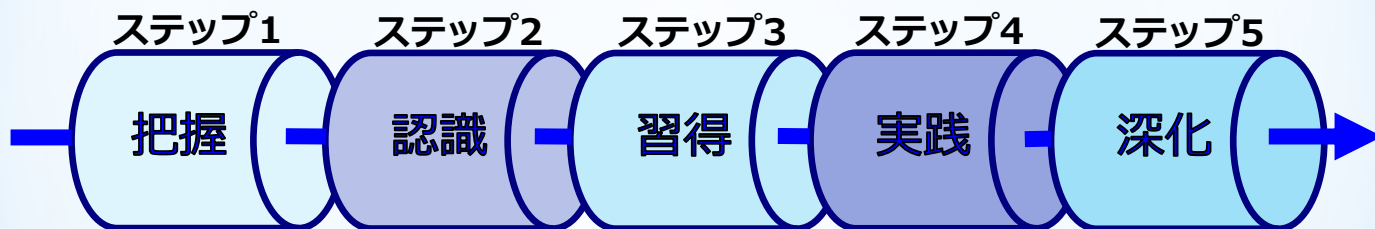
評価の観点

○時間扱い（参考）

2 市民科学学習について

市民科の5つのステップ

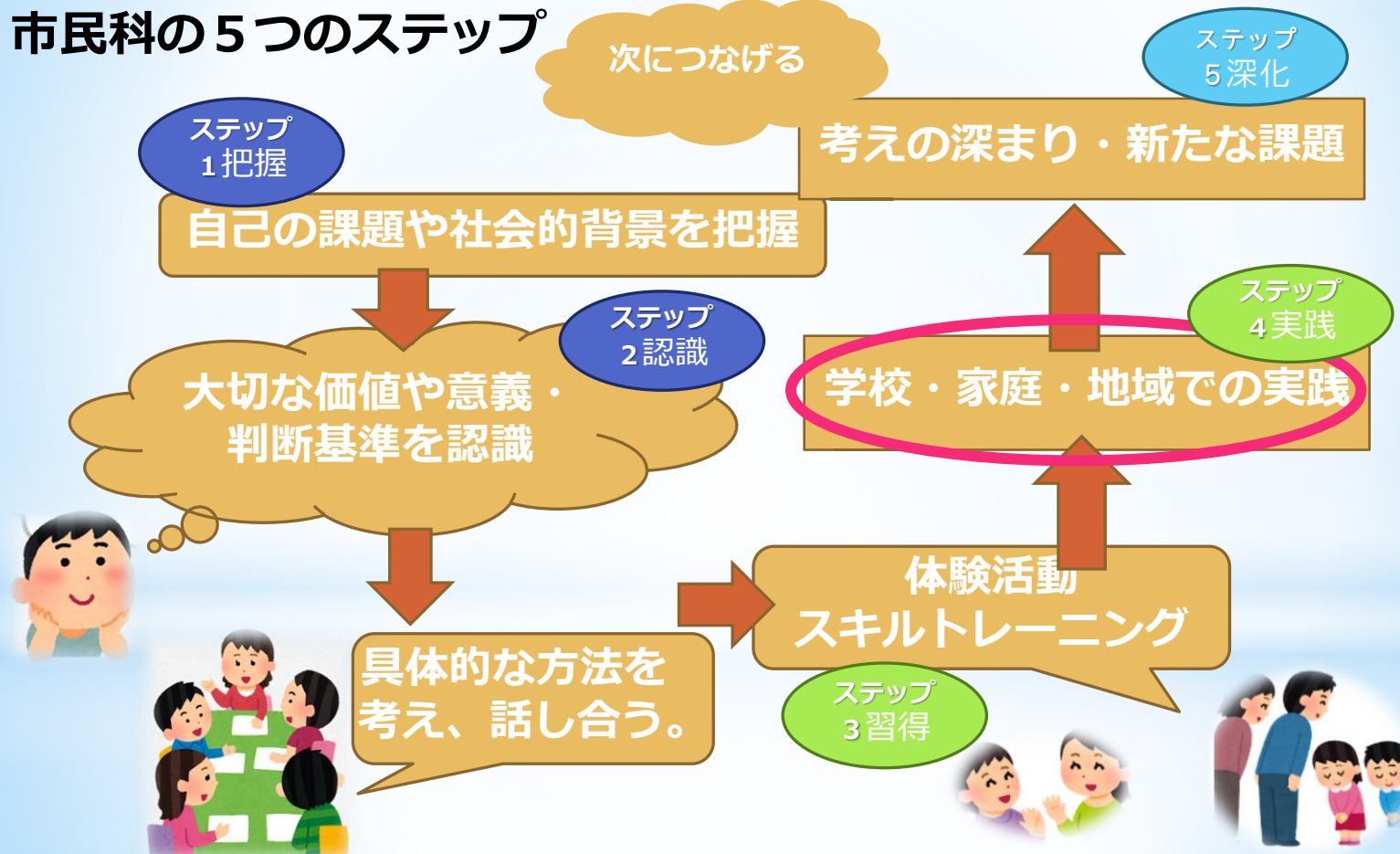
【現在の市民科の5つのステップ】



- ・ステップ1：振り返りと**気づき**・社会的背景の**把握**
- ・ステップ2：**意義**や**価値**の**認識**・**判断基準**の**確認**
- ・ステップ3：**スキルトレーニング**や**体験活動**の**実施**
- ・ステップ4：学校・家庭・地域での**実践**・**活用**
- ・ステップ5：考えの**深まり**・**新たな課題設定**

2 市民科学学習について

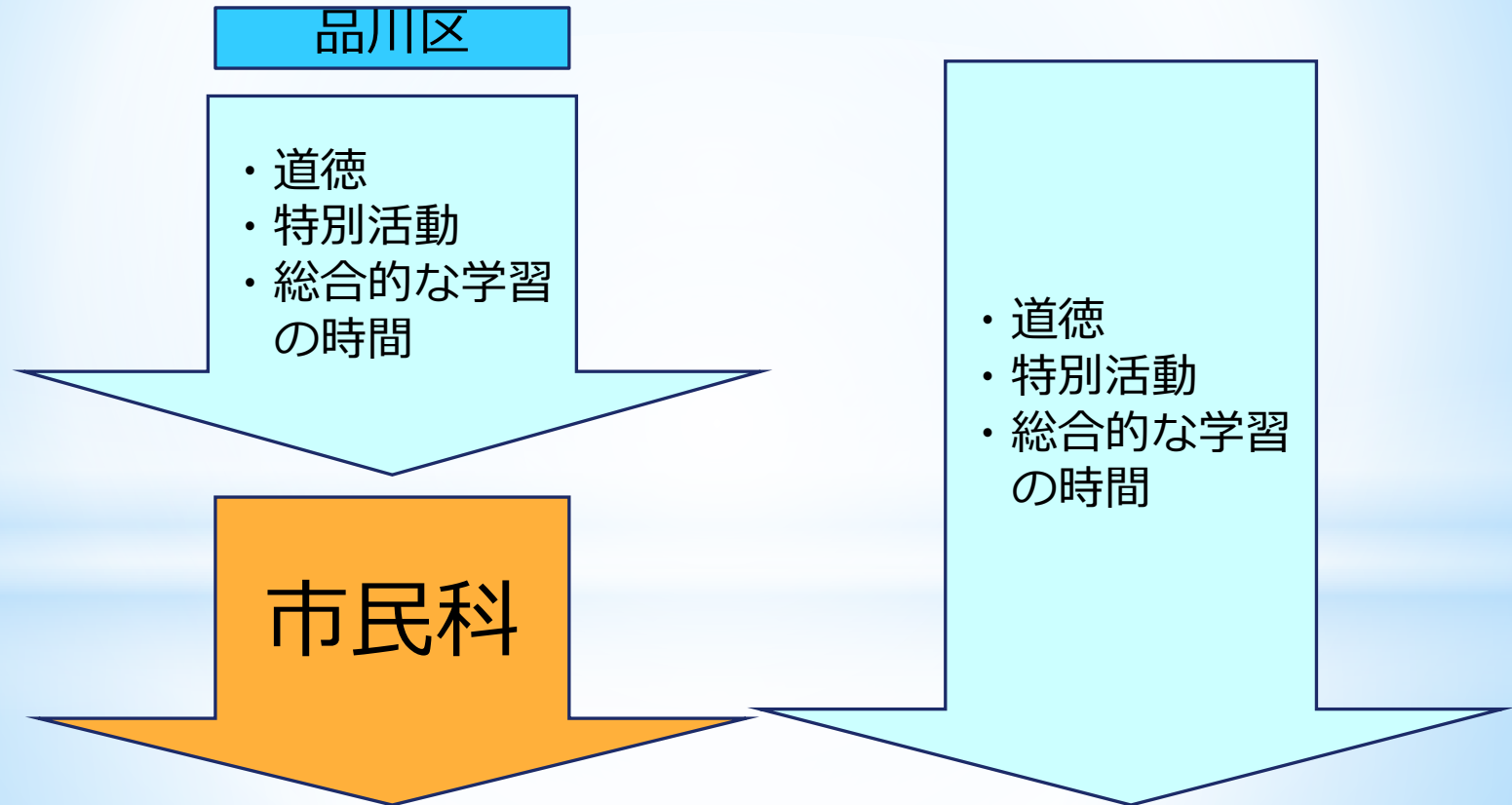
2 市民科の5つのステップ



3 一貫プランについて

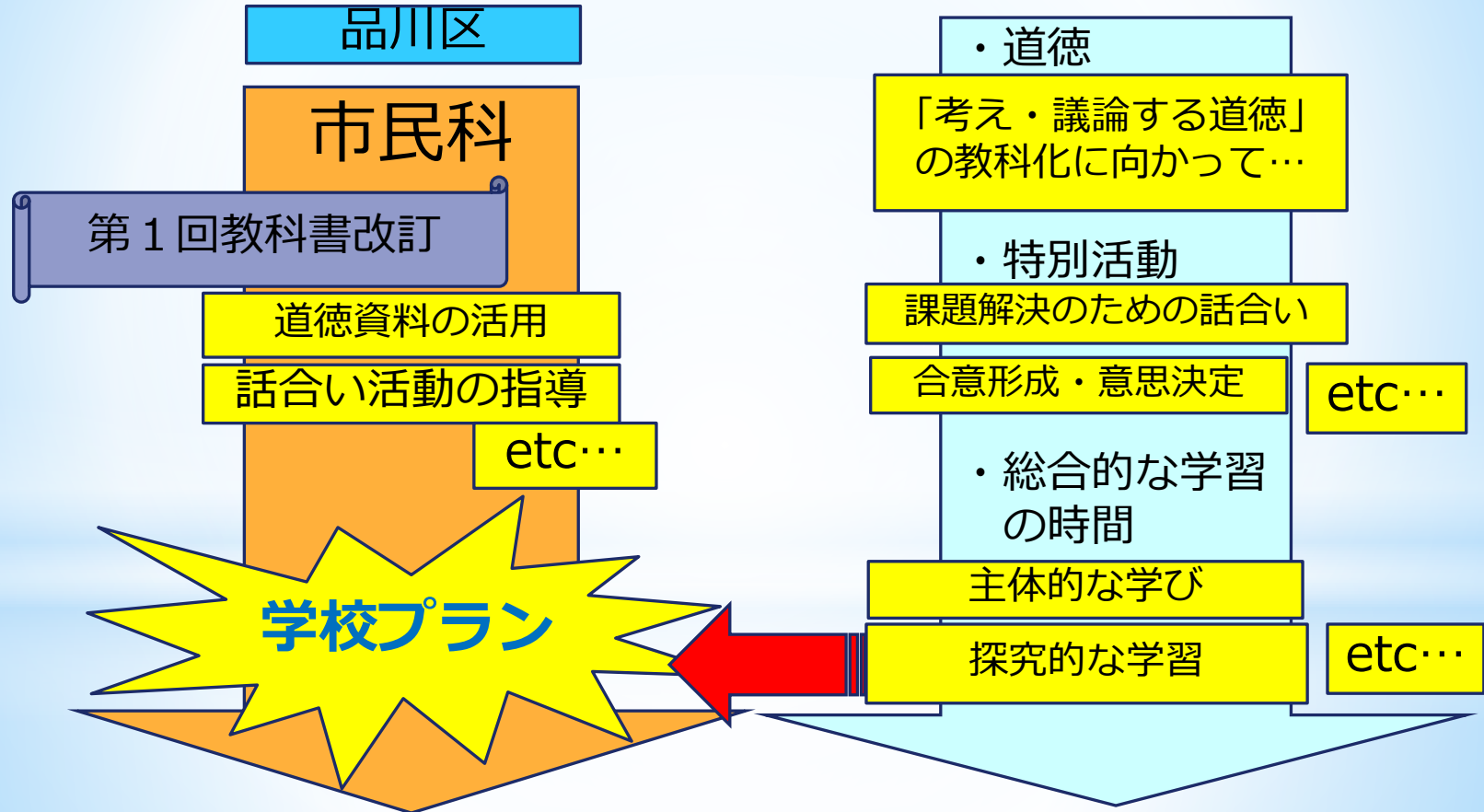
3 一貫プランについて

一貫プランについて ～設定の背景～



3 一貫プランについて

一貫プランについて ～設定の背景～



3 一貫プランについて

一貫プランについて ～学校プランとは～

- 3・4年生10時間、5年生以上20時間が上限。
- 各学校の特色ある教育活動を行う。
 - ・学校として重点を置く学習活動
 - ・地域と連携した活動 ・体験活動 など
- 学校の実態に合わせて、必要な教科書単元を繰り返し指導する時間にもあてることができる。

3 一貫プランについて

一貫プランについて ～一貫プランとは～

